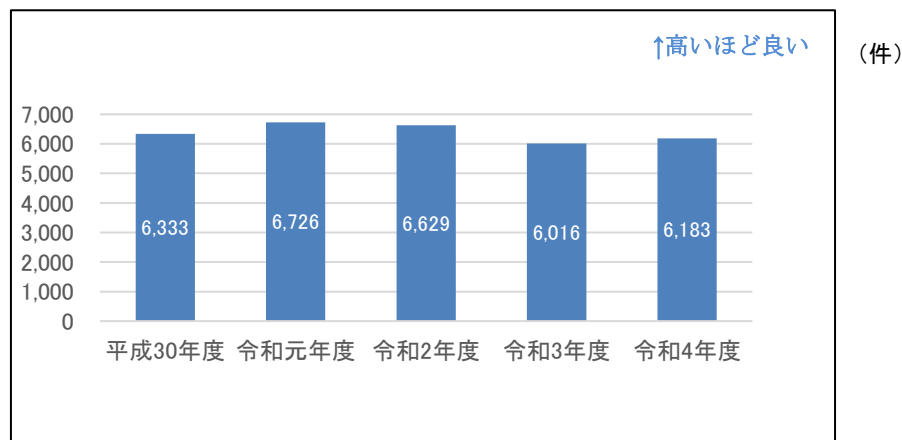


4 手術技術度 D と E の手術件数

○項目の解説

国立大学附属病院は急性期医療の要であり、外科治療の能力が必要であることは「項目2 手術室内での手術件数」の説明の通りです。この指標は、単に手術件数だけでなく、どの程度難しい手術に対応できるのかを表現する指標です。手術の難しさと必要な医師数を勘案した総合的な手術難度を技術度といますが、外科系学会社会保険委員会連合の試案では、2000種類余りの手術をそれぞれ技術度AからEまでの5段階に分類しています。技術度D及びEには熟練した外科経験を持つ医師・看護師や器具が必要なので、難易度の高い手術といえます。

○当院の実績



○当院の自己点検評価

当院は大学病院という特性もあり、手術全体の 90%以上が手術技術難易度の高い D と E の手術となっています。令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により入院制限・手術制限を行ったため、手術全体の件数が減少し、それに伴い難易度の高い手術件数も減少しました。手術件数は減少しましたが、手術技術難易度の高い手術の割合は維持しております。

各診療科とも難易度 D・E の手術を多く行いながら、「専門医」の教育・育成にも積極的に取り組んでいます。

○定義

DPC データを元に算出した、外科系学会社会保険委員会連合(外保連)「手術報酬に関する外保連試案(第9. 2版)(第9. 3)」において技術度D、Eに指定されている手術の件数です。

1手術で複数のKコードがある場合は、主たる手術のみの件数とします。

○算式

実数